

製品名: EID-1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10358

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	21kDa

抗原情報

遺伝子名	EID1 EID1; C15orf3; CRI1; RBP21; PNAS-22; PTD014; EP300-interacting inhibitor of differentiation
別名	1; 21 kDa pRb-associated protein; CREBBP/EP300 inhibitory protein 1; E1A-like inhibitor of differentiation 1; EID-1
遺伝子 ID	23741.0
SwissProt ID	Q9Y6B2
免疫原	抗血清はヒト EID1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

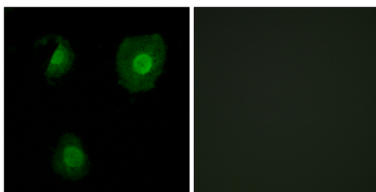
背景

発達段階: 心室組織では発達に伴い発現が低下するが、成体心房組織では高い発現を維持する。ヒト骨格筋細胞の初代培養では、筋分化過程において発現が低下する (タンパク質レベル)。,機能: RB1 および EP300 と相互作用し、MYOD1 の転写活性化を抑制する。EP300 および CBP ヒストンアセチルトランスフェラーゼ活性を阻害する。細胞周期からの離脱と、細胞分化に必要な遺伝子の転写活性化との関連に関与している可能性がある。NR0B2 の候補共阻害因子として作用し、転写阻害機構に直接関連している可能性があります。,誘導: 分化中の U937 白血病細胞でダウンレギュレーションされています。 ,その他: MYOD1 の阻害は、EID1 が EP300 ヒストンアセチルトランスフェラーゼに結合してその活性を阻害する能力の一部起因している可能性があります。 ,PTM: U-2OS 骨肉腫細胞でユビキチン化され、細胞周期の終了時にプロテアソームによって急速に分解されます。 ,細胞内局在: 核と細胞質の間を往復する可能性があります。 ,サブユニット: LXCXE モチーフを介して RB1 のポケット領域全体と相互作用します。EP300、NR0B2、および TRIM27 と相互作用します。 ,組織特異性: 広く発現しています。心臓、骨格筋、脾臓、脳、および精巣で最も豊富に発現しています。胎盤および末梢血白血球では、はるかに低いレベルで発現しています。肺ではほとんど検出されない。また、肺癌 A549 および様々な白血病細胞株でも弱い発現が見られる。 ,発達段階: 心室組織では発達に伴い発現が低下するが、成人心房組織では高い発現を維持する。ヒト骨格筋細胞の初代培養では、筋原性分化の過程で発現が低下する (タンパク質レベル)。,機能: RB1 および EP300 と相互作用し、MYOD1 の転写活性化の抑制因子として作用する。EP300 および CBP ヒストンアセチルトランスフェラーゼ活性を阻害する。細胞周期からの離脱と、細胞分化に必要な遺伝子の転写活性化の連携に関与している可能性がある。NR0B2 の候補共阻害因子として作用し、転写阻害機構に直接関連している可能性があります。 ,誘導: 分化中の U937 白血病細胞でダウンレギュレーションされています。 ,その他: MYOD1 の阻害は、EID1 が EP300 ヒストンアセチルトランスフェラーゼに結合してその活性を阻害する能力の一部起因している可能性があります。 ,PTM: U-2OS 骨肉腫細胞でユビキチン化され、細胞周期の終了時にプロテアソームによって急速に分解されます。 ,細胞内局在: 核と細胞質の間を往復する可能性があります。 ,サブユニット: LXCXE モチーフを介して RB1 のポケット領域全体と相互作用します。EP300、NR0B2、および TRIM27 と相互作用します。 ,組織特異性: 広く発現しています。心臓、骨格筋、脾臓、脳、および精巣で最も豊富に発現しています。胎盤および末梢血白血球では、はるかに低いレベルで発現しています。肺ではほとんど検出されない。また、肺癌 A549 および様々な白血病細胞株でも弱い発現が認められる。

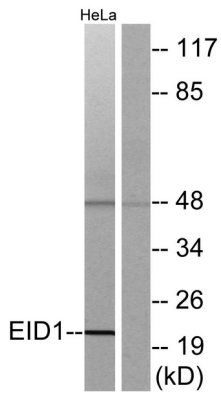
研究分野

-

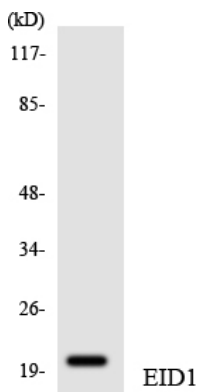
画像データ



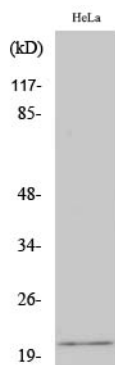
EID1 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



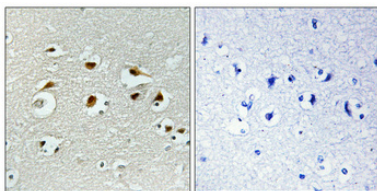
EID1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



EID1 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウェスタンブロット分析。



EID-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。